

2022年6月27日
記者発表資料
町田市立国際版画美術館
副館長 星野
電話 042-726-2771

市立国際版画美術館で2つの展覧会を行います

1 「長谷川潔 1891-1980 展 一日常にひそむ神秘」

市立国際版画美術館では7月16日(土)から、「長谷川潔 1891-1980 展 一日常にひそむ神秘」を開催します。

本展はパリで創作活動をして高い評価を得た銅版画家、長谷川潔を紹介する展覧会です。

長谷川は1918年に日本を去って以来パリを拠点に活動し、サロン・ドートンヌやフランス画家・版画家協会に所属してパリの画壇で高く評価されました。フランスでは文化勲章、日本では勲三等瑞宝章を授与されています。

市立国際版画美術館は2018年度にこの版画家の展覧会を開催しました。本展はその展覧会をベースに、最初期の作品から1970年代の銅版画までを年代順に展示するとともに、関連作家の作品も展示、全体を約165点で構成します。また挿絵本の傑作である仏訳の『竹取物語』について、挿絵頁を可能な限り多く展示します。

関連イベントとして、講演会や子どもでも参加できる版画体験イベント、プロムナード・コンサート、担当学芸員によるギャラリートークなどを実施する予定です。また、小中学生のために鑑賞用ワークシートを配布いたします。

※詳細は別添チラシをご覧ください。

2 ミニ企画展「文明開化の子どもたち—浮世絵に描かれた遊びと学び」

今春、3月30日～5月21日にかけて、フランスのパリ日本文化会館で市立国際版画美術館との共催展「文明開化の子どもたち」(原題 Les enfants de l'ère Meiji j1 école de la modernité <1868-1912>)が開催され、子ども絵や教育錦絵など約140作品が紹介されました。現地では浮世絵の色彩や技術、明治という時代背景などが関心を集め、フランスと日本を比較しながら鑑賞する親子連れの姿も見られました。

その凱旋展として開催する本ミニ企画展では、当館が収蔵する明治浮世絵のなかから、子どもたちの姿を展観し、当時の遊びと学びの文化をご紹介します(約80点、前後期で展示替えあり)。また写真や印刷物を通して、パリ展開催時の様子も併せてご報告します。



豊原国周「開花人情鏡 勉強」

明治11年(1878)、町田市立国際版画美術館蔵



山本昇雲「いますかた つるし柿」
明治39年（1906）、町田市立国際版画美術館蔵



宮川春汀「小供風俗 動物園」
明治30年（1897）、町田市立国際版画美術館蔵

■ 会 期 :

- 1 「長谷川潔 1891-1980 展 一日常にひそむ神秘」 = 7月16日(土)~9月25日(日)
- 2 ミニ企画展「文明開化の子どもたち—浮世絵に描かれた遊びと学び」
= 7月13日(水)~9月25日(日)

※ミニ企画展は、作品保護のため、会期中に展示替えがあります。

■ 会 場 : 市立国際版画美術館 (原町田 4-28-1)

■ 休 館 日 : 月曜日

但し、7月18日(月・祝)、9月19日(月・祝)は開館し、7月19日(火)、9月20日(火)は休館

■ 開館時間 : 平日 = 午前10時~午後5時

土日祝 = 午前10時~午後5時30分

※入場は閉館30分前まで

■ 観 覧 料 :

- 1 「長谷川潔 1891-1980 展 一日常にひそむ神秘」 = 一般800円、大・高生400円、中学生以下無料
- 2 ミニ企画展「文明開化の子どもたち—浮世絵に描かれた遊びと学び」 = 無料

※展覧会の詳細は国際版画美術館ホームページ (<http://hanga-museum.jp/>) に掲載しています。

※いずれの展覧会も、開会式はありません。